

議事録

● 会議名：第8回中四国学生剣道連盟理事会

- 日時：2001年9月8日PM1時00分より
- 場所：岡山大学学生会館・1階ホール
- 構成員：34名
- 参加者：腰山静雄、産賀敏彦、渡辺道徳、小倉 肇、大元輝民、森 正典、
榊 康守、三浦利雅、木原資裕、石井博貞、境 英俊、戸田元丈、
隅田年彦、山内和代、富山貴史、吉永和純、濱野圭一郎、元山正樹、
青陽 静、秋田義弘、井門篤志、大本陽介、國安直樹
(以下委任状により出席と見做す) 湯村正仁、木谷直俊、大塚忠義、
若 良二、草間益良夫、山神眞一、村上昌由、谷 佳奈枝、中田康
隆、松下義彦 以上33名
欠席者：高澤貞三以上1名

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。
慣例に倣い会長の腰山静雄を議長、理事長の小倉肇を進行役として議事が
進められた。

● 記 録

氏名：青陽 静

E-mail：ube-ihi@sage.ocn.ne.jp (不明点はこちらへ)

● Summary：

- 議題1：第7回理事会議事録確認
- 議題2：全日本理事会及び常任理事会報告
- 議題3：全日本50周年記念行事について
- 議題4：全日オープン大会
- 議題5：中四国学生剣道 Challenge Cup について
- 議題6：剣友会（全日、中四学連、剣友剣道大会）の現状報告
- 議題7：その他

1. 第7回理事会議事録確認

第7回理事会議事録を異議なく承認した。

2. 全日本理事会及び常任理事会報告

- (1) 50周年記念事業のうち、「世界学生剣道親善研修会」を開催するのに全日本学生剣道連盟特別会計より500万円を負担し、500万円を地域連盟で負担することが決定され、中四国学生剣道連盟の負担金が¥367,000(一人あたり500円)となった。
- (2) 全日本女子優勝大会(名古屋)への審判員派遣を中四国から1名を2名にして、1名分の旅費交通費は中四国で負担して頂きたい旨依頼があった。但し、出せない場合は東海連盟から1名を選任するとのこと。

3. 全日本50周年記念行事について

報告者：木原資裕

- (1) 記念誌については、50周年と云うことで来年ではなく、平成15年に刊行することになった。
- (2) 腰山会長より「世界学生剣道親善研修会」という形での事業が学生にとって意義のあるものなのか、ましてや各地域連盟にまで負担させてまで必要なものであるか疑義が出された。
 - ・石井先輩より全日本学生剣道連盟の理事会の運営、特に分担金を決めた時に学生が参加していないような運営の方法について疑義が出された。
 - ・会長より安易に学生のお金を使う方法を選択すべきではない。先輩が汗をかいて集めるべきではないかとの意見の発言があった。
 - ・全日本に対して、改善できることがないか、中四国常任理事会で討論し、10月の全日理事会に具申することとした。

4. 全日オープン大会を中四国で主管を受けるか否か？

- (1) 腰山会長よりオープン大会の創設の趣旨が述べられた。
 - ・地区大会、全日本大会に出場できない学生に全日(広範囲の地域)レベルの大会に出場する機会を与える趣旨で金沢で始まった。しかし、地域対抗大会(以前開催されていた8地域連盟対抗の男子13人戦、女子7人戦大会)のように持ち回りの大会とすることは弱小(経済的に)連盟に負担を強いることになる。

- ・地域対抗大会の時、9県の剣道連盟に各5万円の支援をお願いした。予算編成も考えるとそう簡単には考えてほしくはない。

(2) 戸田幹事長報告

- ・中四国への打診は、第4回大会（第3回は金沢で行うことが決定している）の主管を引き受けてほしいとのこと。
期日は未定。

(3) 第2回大会出席からの報告（石井博貞）

- ・恵土先輩（北信越）によれば、渡辺前幹事長から中四国でオープン大会を開催したいが人的に行える状態ではないので今暫くの猶予をとの話があつて、中四国での開催が浮上してきた旨話されたが、渡辺前幹事長に確認したが、開催の意志は述べていないとのことであつた。
- ・尾上先輩（全日副会長）より、個人的な意見である（関東連盟ではオープン大会の開催自体が否定的）ことを前置きで、金沢開催（中部を中心に学生が参加できた）及び仙台開催（東日本の学生が参加できた）で、関西連盟から東は参加できたので、西日本の学生が参加できやすいように中四国域内での開催を引き受けて頂きたい旨の発言があつた。

(4) 常任理事の意見

- ・参加者が1000人になれば、収支の面では乗り切れる。
- ・人的な面（学生）で、今の中四国では開催は無理。
- ・学生が開催したいというのであれば止めるべきではないのでは？
- ・お祭りとして行えばよいのでは？

(5) 第2回大会へ出場した学生の意見

- ・松山大学 9名 すべて自費参加
がんばっても選手権大会、優勝大会へ出場できない者が大きな大会へ出場できる機会は続けてほしい。今回、毛利さんが敢闘賞に入賞した。
- ・広島大学 1名 幹事長（全日から旅費交通費は出ている）
- ・徳島文理大学 1名 すべて自費参加
- ・第2回大会は11名の参加。第1回大会は30数名が参加し、松山大学の武田さんが優勝した。

(5) 境先輩よりオープン大会の確認事項

- ・Q：地域対抗大会に変わって始められたのか？
A：詳細はオープン大会パンフに記載されているが、概ねそのようである。
- ・Q：持ち回りで行うことが決められていたのか？
A：第1回大会で赤字がでたら止める筈であつたが、金沢大会の時点で既に東北で行うことが決定していた。第2回大会は赤字にならないように節約されていた。持ち回りが決められていたわけではない。

(6) 中四国でオープン大会の主管をする場合

- ・地方公共団体等の支援が金沢市で開催した場合は、大規模の支援があるが、中四国域内では小規模或いは0である。
- ・開催時期を考慮しなければ、参加選手が1000人集まらない。

- ・参加資格を考慮すれば、参加選手を増やすことができる。
- (7) 森先輩よりオープン大会そのものを考える
- ・オープン参加が果たして大学剣道発展のために効果があるのか？
 - ・誰でも出場することができるとうことが剣道発展に効果があるのか？
 - ・選手になるために稽古していることは何なのか？
 - ・以上を視野に入れて費用対効果について具体的な資料を作成して検討する必要がある。
- (8) 以上を踏まえて、中四国常任理事会で検討して、次回理事会に報告することになった。

5. 中四国学生剣道 Challenge Cup について

報告者：石井博貞

(1) 学生幹事会でのアンケート報告

- ・今年度の選手権大会のようにコートを男女に分けるのではなく、男子の1,2回戦を先に行い、女子の1,2回戦を行うというふうに進めるのはどうかについては、その方が進行具合も判りやすいという理由から賛成の方が多かった。
- ・Challenge Cup を新人戦で行うのはどうかということについては、個人戦は個人戦にまとめた方が良いという理由から反対の意見が多かった。

(2) 現在の選手権大会と同時に Challenge Cup を開催することを前提に別紙大会改革案が提起された。

- ・男子3段以上の部1回戦を前日に行う。
- ・時間的には1時間を想定する。
- ・審判研修会と併せて開催する。
- ・審判員にとっては、緊張のある研修会になる。
- ・学生は、研修の一環ということに違和感を感じるのでは？との、意見が出された。

(3) Challenge Cup の意義について

- ・Challenge Cup 大会を以前の原点に戻す必要がある。現在の運営では、全日のオープン大会のように選手権+Challenge Cup でほとんどの学生が出場できるので意義が薄れる。新人戦大会に移動することで新人戦に出場できない人、新人戦の時期に3、4年生でも出場したい人を対象にした方が良い。

データ：4回大会男女157名中、3、4年生は34名（約20%）

補助員を高校生にお願いする運営では、大学生が運営を経験する教育にならない（大会を支えることの重要性）。

- ・新人戦大会では1、2年生がほとんど出場している。その中で3、4年生の割合が2割と考えると、この時期の実行性に乏しい。
- ・リーダーズセミナー時に移動することが望ましい。
- ・3、4年生のみの出場とし、1、2年生の出場は認めないことにし、新人戦に移動する。あくまでも選手権大会へ出場するという努力はすべきである。

- ・ **Beginner's Cup** 時、力のある新入生が選手権に出場するよりもタイトル欲しさに **Beginner's Cup** に出場した選手がいると聞き、大会自体を止めるべきと感じた。
 - ・ **Challenge Cup** を止めて、選手権大会の出場枠を増やしてはどうか。
 - ・ 広島の大大会でこれ以上の試合場（現在 5 試合場）を増やすことは、諸般の事情により困難である。また、現在の選手権には、前年度登録人数により出場枠があり、多くの学生は選手権大会に出場することを目指している。部内試合を勝ち抜いて選手権に出場することは、お互いに切磋琢磨をし、向上心が生まれる。惜しくも選手権には出場できなく、**Challenge Cup** へ出場したとしてもその悔しさがあり、その人にも向上心が生まれるのでは。
- (4) **Challenge Cup** については、本理事会の意見を学生幹事会で討議し、とりまとめ、それを踏まえて、大会担当常任理事で検討をすることとなる。

6. 剣友会（全日、中四学連、剣友剣道大会）の現状報告

報告者：小倉 肇

- (1) 全日本学連剣友会の立ち上げを 10 月の全日の前日に行う。
- (2) 全日本学連剣友会への上納金をどのようにすべきかが検討された。
 - ・ 各地域学連剣友会の登録人数によって決めて行く方向。
 - ・ 大きな事業として、OB 相互の懇親を深めることと学生連盟への援助であるが、援助は出来るようになってから行うこととし、初めから無理をせずに徐々に行って行くこととなった。
- (3) 中四学連剣友会の理事に各県から 1 名ずつ選任をお願いしたが、中四国・関東の出身者のみであったので、会長指名理事として、関西出身者 2 名をお願いすることとした。
- (4) 各県の組織化については、各県により事情が異なるため各県にお任せする方針とした。
- (5) 中四学連剣友会規約の中で年会費等については、5000 円の入会金（個人）及び団体の年会費（大会時の広告掲載とする）で実施する。
- (6) 今年の中四学連剣友剣道大会は、11月24日（土）岡山武道館で実施する。
 - ・ 全日の大会が今後何人戦になるか不明であるが、今大会は昨年に倣い 3 人戦の年齢計で組み合わせをする。
- (7) 愛媛県学連剣友会設立及び活動報告
 - ・ 104 名の会員でスタート。年会費 5000 円とした。
 - ・ 現在、37 名の振り込みがあった。
 - ・ 愛媛県学連剣友会主催で中学・高校生を交えて稽古会も開催した。

7. その他

腰山会長より役員改選期ではないが、中四国学生剣道連盟顧問に青野晃治先輩を推薦したい旨発言があり、これを承認した。

以上の議事を終え、本会は午後2時58分、議長が閉会を宣言して散会した。


上記決議を明確にするため議事録をここに記す。署名人はこの議事録が正しいことを以てここに記名及び押印する。

平成 13 年 9 月 8 日

中四国学生剣道連盟 第8回理事会

署 名 人 三 浦 利 雅

署 名 人 石 井 博 貞

 次回 MTG

日 時：2001年12月8日

場 所：広島県立総合体育館・B 1 F 中会議室

以上